



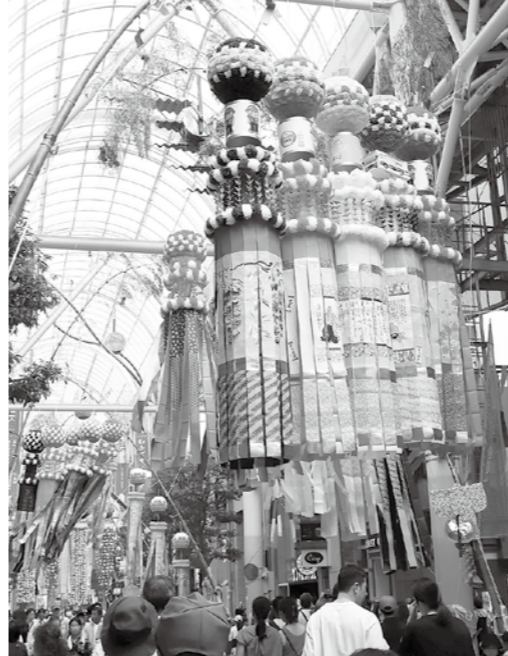
▲パネルディスカッション

参加者は登壇者の経験に基づくとトークに聞き入っていました。フォーラム終了後、参加者からは「自分づくり教育の意義を再認識した」「大人

市では平成18年度より、職場体験活動などを通じ、子どもたちが社会で「たくましく生きる力」を身に付けることを目的とした「仙台自分づくり教育」を行っています。8月1日には、この仙台版キャリア教育をテーマとした「仙台自分づくり教育フォーラム」を太白区文化センターで開催し、市内の教育関係者や地域企業などが参加しました。当日はパネルディスカッションも行われ、中学生時代に自分づくり教育を受けた25歳の若者と、職場体験学習などを受け入れる企業側の代表者が登壇。自分づくり教育の持つ力についてそれぞれ語りました。若者代表の柴又彪我さんは「仕事をすること」自体を知る良い機会になった」、及川愛さんは「働いている大人はたくましいのだと学んだ。子どもたちに職場体験で実感してほしい」と話し、

市政トピックス

「生きる力」を考えるー仙台自分づくり教育フォーラム



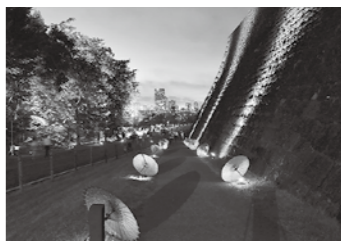
▲多くの見物客が訪れた市中心部商店街

市政トピックス

涼しげに揺れる吹き流しに笑顔ー仙台七夕まつり

8月6日から8日まで、仙台の夏の風物詩である「仙台七夕まつり」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年は中止、3年と4年は規模を縮小して実施されていた七夕まつり。今年は吹き流しの高さ制限もなく、4年ぶりに通常の七夕まつりが復活しました。

8月5日には、前夜祭となる「第54回仙台七夕花火祭」が行われ、約1万6千発の花火が夜空を彩りました。また、期間中「仙台七夕ナイトフェス宵灯り」として、仙台城跡や瑞鳳殿のライトアップを実施。訪れた人たちは、日中と



▲「仙台七夕ナイトフェス宵灯り」のイベントの1つ、「伊達光路」のカラフルな光が、登城路や石垣を照らしました

は一味違う幻想的な七夕の夜を楽しんでいました。まつりの開催中に大きな天気の前れはなく、3日間の入出の合計は226万9千人。市中心部商店街のアーケードも多くの人でにぎわい、華やかに揺れる吹き流しをかき分けながら笑顔で歩く人や、無病息災などの願いが込められた七夕飾りを感じ深そうに見上げる人の姿が見られました。

市政トピックス

(仮称)国際センターー駅北地区複合施設基本構想を策定

音楽ホールと、中心部震災メモリアル拠点の複合施設(以下、「複合施設」)の整備に係る基本構想を、7月に策定しました。市は令和4年1月に、せんだいの姿を子どもたちにしっかりと見せていきたい」といった感想が寄せられました。

市政トピックス

地域の未来を担う若者のチャレンジを応援!

市は、スタートアップ(革新的なビジネスなどで急成長を目指す企業)を経済成長のエンジンと位置付けており、起業支援や次世代を担う人材育成などに取り組んでいます。その一環として、7月25日、若者のチャレンジの促進による地域経済活性化に関する連携協定を、一般社団法人VENTURE FOR JAPAN、一般社団法人仙台経済同友会、株式会社経営共創基盤と本市の四者間で締結しました。

協定では、地域企業の人材確保や起業人材の育成などに関して連携して取り組むことに合意。四者の強みを生かして、新卒での就職から起業、スタートアップの育成まで、若者の切れ目ないチャレンジを支援する枠組みを作ります。若者の地域定着が課題とされる中、将来の選択肢を増やすような支援の重要性が増えています。地域経済を持続的に成長させていくために、官民一体となって取り組みを推進していきます。

市政トピックス

青葉山交流広場に複合施設を整備する方針を決定し、同年8月には有識者による懇話会を設置。施設の在り方について、市民・関係団体から寄せられた意見も踏まえながら議論を重ねてきました。



第6回懇話会(令和5年6月)

基本構想では複合施設を「人・文化・まちを育む創造の広場」とする基本理念をはじめ、両施設の基本方針などを定めています。音楽ホールが掲げるのは「仙台の文化芸術の総合拠点」。生の音の響きを重視した2千席規模の大ホール等を備える施設は、文化芸術の力を、教育や福祉、まちの活性化などさまざまな分野に生かすという機能も担います。また、中心部震災メモリアル拠点について、災害の経験や教訓を伝承するだけでなく、災害に備え、乗り越えるための文化を発信する「災害文化の創造拠点」と位置付けました。さらに、両拠点が連携することで新しい文化や魅力が生まれる、創造性あふれる場を目指します。

令和13年度ごろの開館を見込む複合施設。人やまちを豊かに育む杜の都の新たなシンボルとなるよう、着実に整備を進めていきます。

市政トピックス

秋田集中豪雨の被災地に応援職員等を派遣しました

7月14日から大雨で甚大な被害を受けた秋田県に、被災地支援のため市職員を派遣しています。7月21日から27日まで、被害状況の把握と応急給水車両の配備調整・浄水場等の復旧支援のため、水道局の職員計8人を南秋田郡五城目町に派遣。また、24日に被災家屋の被害認定調査と罹災証明書発行業務のため、財政局の職員6人が秋田市に向かい、以降交替で応援を行っています(8月18日現在)。7月27日から8月7日まで、環境局の職員計14人とごみ収集車両2台が、秋田市で災害ごみの収集・運搬等の支援にあたりました。



▲7月24日の財政局職員の出発式では、郡市長が「存分に力を発揮してほしい」と励ましました

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

ジャッキーと守ろうーこのほしの未来

国連加盟の193カ国が2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットをまとめた「SDGs」。環境問題や差別、貧困、人権問題といった課題を世界のみならず解決していくと、2015年9月25日に採択されました。採択日を含む1週間は「SDGs週間」と呼ばれ、SDGsの意識を高めるさまざまな事業が毎年世界中で展開されています。

ところで、小さなお子さんの「SDGsってなあに?」という質問に「それはね」と、ご家庭と一緒に学び取り組んでもらえたらと、可愛らしいチャリダーが応援の名乗りを上げてくれました。絵本シリーズ「くまのがっこう」の「ジャッキーちゃん」です。

「くまのがっこう」は仙台出身の絵本作家・あいほらひろゆきさんの代表作。いたずら好きで天真らんまん女の子のジャッキーと、11匹の優しいお兄ちゃんくまのこたちの生活が描かれていて、海外にも多くのファンがいます。

生みの親のあいほらさんは、東日本大震災の津波で被害が大きかった保育所を毎年訪ね、市民図書館にはたくさん絵本を寄贈するなど、仙台の子どもたちと子育て家庭を応援する心強い存在でした。そのあいほらさんご逝去の知らせが昨年夏に届き、とても残念でなりませんでしたが、あいほらさんの想いを、なんと、ジャッキーが引き継いでくれることになったのです。

9月18日には「SEND AI SDGs Week」の企画の1つとして、サンモール一番町でジャッキーのSDGsショーを開催します。また、幼児向けの「ジャッキーとSDGs」の冊子も出来上がり、今月から3歳児健診の際にプレゼントすることにしました。

未来のためにできることを、ジャッキーと一緒に考え、取り組みを進めたいと思います。2030年まで、そうのんびりほしません。



● 次回の掲載は12月号を予定しています